

# 第11回 日本痤瘡研究会学術大会

**会 頭** 小林 美和 (こばやし皮膚科クリニック)

**日 時** 2022年8月7日(日) 16:15~18:15

※開催時間が変更となりました。

**会 場** 虎ノ門ヒルズフォーラム5F メインホール(2)B会場  
(第40回日本美容皮膚科学会総会・学術大会会場内)

〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 5F

**参加費** 個人会員：無料(予め配布する参加証を御持参ください。)

賛助会員：(1名につき)10,000円※

非会員：(医師)5,000円※/(その他：1名につき)15,000円※

※事前登録の方には、予め参加証をお送りします。

座長：小林 美和 (こばやし皮膚科クリニック)

## 講演1 酒皰治療のUpdate日本版

演者：山崎 研志 (東北大学皮膚科)

顔面の赤ら顔を主症状とする酒皰は、毛細血管拡張、脂腺性毛包周囲を中心とした皮膚炎症反応、線維化をともなう鼻瘤・瘤腫の形成などの複数の皮膚症候を呈し、1人の患者の顔面に複数の症候を併せ持つことがしばしば経験される。丘疹膿疱型酒皰にはメトロニダゾール外用薬を中心とした抗炎症作用を有する外用薬と内服療法が有効である。白人と異なる日本人酒皰の特徴を考えながら、症候毎の酒皰治療方法の動向を紹介する。

座長：黒川 一郎 (明和病院皮膚科)

## 講演2 コロナ禍でのマスクとニキビ

演者：古川 福実 (日本赤十字社 高槻赤十字病院)

紅斑丘疹型や蕁麻疹などが新型コロナ感染症に出現する。より高頻度に見られるのが、マスクの常用によってもたらされた皮膚症である。タイからの報告によればサージカルマスク使用者の45%が痤瘡の増悪を訴えていた(J Eur Acad Dermatol Venereol. doi: 10.1111/jdv.17039)。高槻赤十字病院の医療関係者のアンケート調査によれば、コロナ流行後日常生活において気になることがあるとの訴えのうち52%がマスクに原因があった。そのうち、ニキビ・吹き出物が最も多かった。原因対策などを考えてみたい。

## 講演3 痤瘡・痤瘡瘢痕に対する美容治療

演者：堀内 祐紀 (秋葉原スキンクリニック)

痤瘡治療の主軸となる痤瘡治療外用剤が販売開始となってから数年経過した。面皰抑制による痤瘡瘢痕予防を掲げ、我々皮膚科医を中心に痤瘡に関わる医師・会社などが様々な取り組みをしてきた。しかし、すでに出来てしまった痤瘡瘢痕、重症痤瘡治療後に新生する痤瘡瘢痕を完全に予防することは未だ困難である。

完治が困難な状況の中、患者の状態を少しでも改善するために当院で行っている自費治療(保険適用外治療)について、症例を供覧しながら報告させていただく。

日本痤瘡研究会 (HP: <http://www.ibmd.jp/zasou/>)

(事務局代行) 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル6F

TEL: 03-6801-8084/FAX: 03-6801-8094 E-mail: jars-sec@pw-co.jp

# 第11回 日本痤瘡研究会学術大会

## 申込書 ※事前申込にご協力ください。(個人会員の方は登録不要です。)

必要事項をご記入のうえ、下記事務局までメール又は郵送にてお送りください。

いずれかにチェック☑をお願いします。

- 賛助会員  
非会員 ( 入会希望 入会希望なし )

ふりがな	
ご芳名	
ご住所 ( <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務地)	〒 - 都道府県 市区町村
ご所属	
電話番号	( ) -
メールアドレス	@

※ご登録いただいた情報は、本研究会の運営管理にのみ使用いたします。第三者への個人情報の提供・開示はいたしません。

**賛助会員をご希望の方は別途、事務局までご連絡ください。**

### 研究会役員

- 理事長 林 伸和 (虎の門病院皮膚科部長)  
副理事長 谷岡 未樹 (谷岡皮膚科クリニック院長)  
理事 赤松 浩彦 (藤田医科大学医学部応用細胞再生医学講座教授)  
窪田 泰夫 (香川大学名誉教授)  
黒川 一郎 (明和病院皮膚科部長/にきびセンター長)  
小林 美和 (こばやし皮膚科クリニック副院長)  
古村 南夫 (福岡歯科大学総合医学講座皮膚科学分野教授)  
山本 有紀 (和歌山県立医科大学皮膚科准教授)  
山崎 修 (島根大学医学部皮膚科学講座教授)  
監事 古川 福実 (日本赤十字社高槻赤十字病院名誉院長  
同 顧問/皮膚・形成外科センター長)  
顧問 川島 眞 (東京女子医科大学名誉教授)  
宮地 良樹 (静岡社会健康医学大学院大学学長/京都大学名誉教授)

(五十音順)

### 日本痤瘡研究会

日本痤瘡研究会(Japan Acne Research Society,略称JARS)は、痤瘡研究者の意見交換の場をつくり、痤瘡の基礎研究や疫学調査、臨床研究を推進することによって、科学的根拠のある治療法の確立とその普及に努めることを目的に2012年6月に発足しました。

日本痤瘡研究会 (HP : <http://www.ibmd.jp/zasou/>)

(事務局代行) 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル6F

TEL : 03-6801-8084 / FAX : 03-6801-8094 E-mail : jars-sec@pw-co.jp